

フィンドレー大学への協定留学 月例報告書（4月分）

平澤美衣奈

（1）はじめに

怒涛の期末テスト期間からのマイアミ一人旅を終え、今は日本に帰国しようとして 4 月分の報告書を書いています。この 9 ヶ月は人生で最も密で忙しいながらも、充実した 9 ヶ月であったと思います。今回のレポートでは、アメリカでの最後の 1 ヶ月の生活について書いていきます。

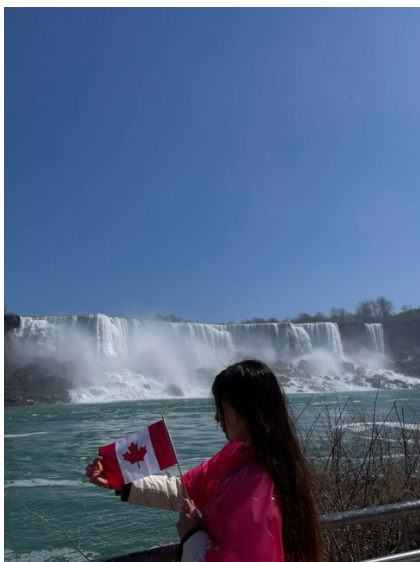
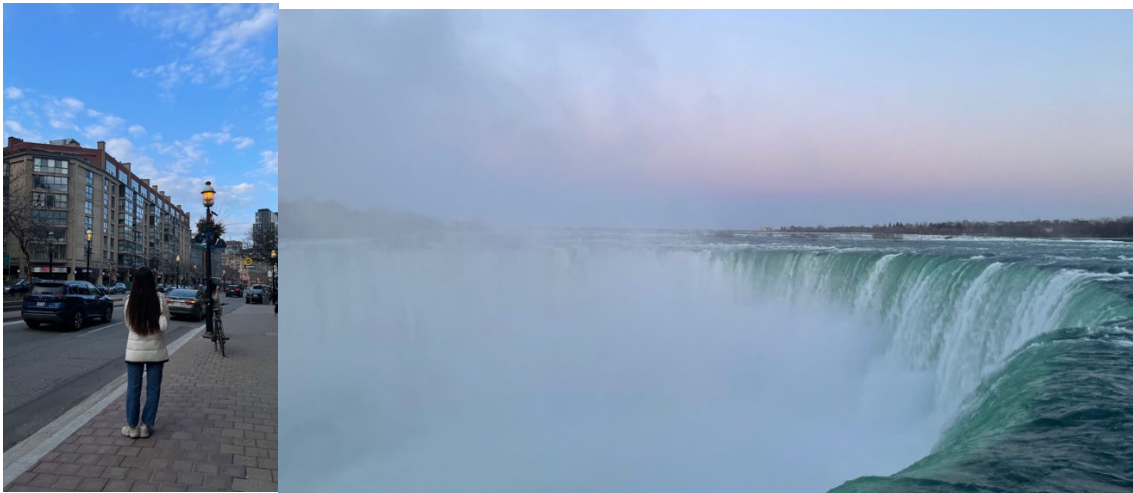
（2）イースターブレイク

4月の初めにはイースターブレイクがあり、この休暇が一年で最後の長期休暇となります。4日間の休暇でしたが、どうしてもアメリカにいる間に一度は国境を越えカナダに行きたいという夢があったため、スケジュールを急遽組み旅行にいきました。

まずはトレドのバスステーションからシカゴまで Greyhound という長距離バスを利用していきました。シカゴに来たのは 2 回目でしたが、1 回目で行くことのできなかつたシカゴ美術館にいきました。シカゴ美術館はアメリカで 3 番目に大きな美術館で、館内だけでなく建物自体もとても綺麗です。シカゴに行った主な理由はコンサートのためでしたが、一人でアメリカのコンサートに行くのは初めてだったので緊張しましたがとても楽しめました。

その後飛行機でカナダのトロントにいきました。ビザの切れる前はカナダの出入国はとても簡単なので行っておいてよかったです。トロントは地理的にはアメリカに近いのですが様々な違いがあり、外国人や留学生にはとても住みやすい多様性に秀でた都市だと感じました。その後はナイアガラまで電車で移動しました。ナイアガラの滝は人生で一度は必ず行くべき場所です。圧巻の迫力を誇るナイアガラの滝は早くても 4 月以降に行くことをお勧めします。なぜならナイアガラの滝の中に入ることでできるクルーズは 4 月から運行されるため、4 月あたりから街全体に活気が戻り始めるからです。留学中の最後の長期休暇を思う存分楽しむことができよかったです。





(3) リサイクルについてのプレゼンテーション

大学の先生から日本のリサイクルについてのプレゼンを依頼されたため、日本のリサイクル活動について学部授業を1人で50分間受け持ち発表をしました。いくら日本人と言えどリサイクルについては全くの素人ですし、50分間学生の前で話しをし、質疑応答にも答えるというのは初めての経験であったため準備の段階ではとても不安でいっぱいでした。

当日はそれまでに準備のできた最大限のことを発表しました。特に不安だった質疑応答の時間では、現地生徒の質問を理解し自分の言葉で答えることができたため、8ヶ月間の自分の成長を実感しました。発表後には学生や先生から「発表よかったよ」や「勉強になった」というありがたいお言葉をかけていただき、自分の自信にも繋がったと思います。



(4) International Night

かねてより希望していた日本の伝統工芸品を紹介する機会をついにいただき、地域の国際的なイベントで“飾り結び”と“組紐”を紹介しました。当日はセクションを一つ割り当てられ、友人と一緒に簡単な飾り結びのやり方を現地の子供達に教えました。イベント自体の規模がそこまで大きくなかったこともあり、説明をする機会はそこまで多くなかったものの、完成品は子供たちが喜んで受け取ってくれ、何よりも自分の企画が現地の人たち、そして一つの展示として受け入れていただけたことがとても嬉しかったです。



(5) おわりに

この9ヶ月間の留学で得たものはここに書き切ることができないほどたくさんありますが、あえて一つあげるならば問題解決のための「度胸」だと思います。以前の自分ならば、問題解決以前に問題にはなから気がつかなかったり、問題を直視することを避けてきたりしていました。それがこの9ヶ月で、どうしても問題に直面せざるを得ない状況に追い込まれたり、問題に気づき解決策を提案する場面に多く直面したりする中で、自ら行動を起こすことができるようになりました。そこにコミュニケーションの能力も加わったことで、対

話の中で問題解決策を模索するという、自分の中では全く新しい対話のスタイルを確立することにも繋がりました。これらの能力は社会に出ても必ず役立つと思っています。大変なことは沢山ありましたが、交通事故にあったものこうして生きて健康に日本に帰国できました。これほどまで沢山の経験を与えてくれたこの恵まれた環境に感謝の気持ちでいっぱいです。